



本宮警察署存続期成同盟会 本宮警察署存続運動について ～「皆さんが安全で安心して生活できる」ために～

◆再編案について

福島県警察総合対策検討委員会は、今年3月24日に県内警察署を現在の28署から22署へ再編する案をまとめ公表しました。この案では、二本松・本宮・郡山北警察署の3署を2署に再編することとしていました。

また、8月26日には県議会開催前に政調会が開催され、県警本部から警察署再編について内容が示されました。これによると「本宮警察署は、郡山北警察署に統合され、分庁舎となる」ものでした。

◆警察署存続運動の経過について

3月24日の再編案を受け、本宮市と大玉村は本宮警察署存続期成同盟会を組織し、署名活動やのぼり旗の掲出により警察署の存続を訴えることとなりました。

また、9月4日には警察署の存続が危ぶまれる状況から警察庁長官、国家公安委員会、地元選出の衆議院議員、参議院議員へ「警察署再編の再考・本宮警察署存続要望書」を提出してきました。そして翌日には県議会各派にも要望書を提出しました。

◆県警本部による広聴会の開催

10月7日から12日にかけて市内で警察署再編にかかる広聴会が3回開催され、県警本部から警察署の再編は、

- ① 機動力を強化し事件事故への即応体制を整える
- ② 現在の警察署と機能が変わらない分庁舎を配置
- ③ 駐在所の活動を強化する

ことが目的であり、「再編案に対する正しい理解」をいただきたいという説明がありました。これに対して、住民の皆さんからは、「交通・防犯・消防などの団体と従来どおりの連携ができるのか」、「国道4号線も通過している地域であり、体感治安も悪化している中、時代に逆行しているのではないか」、「警察官が都市部へ出動することが多くなり、分庁舎にいるのが少なくなるのではないか」という本宮警察署存続を求める意見が多数だされました。

期成同盟会では皆さんの意見をもとに、さらに本宮警察署の存続を求めていく考えです。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。



▲しらすわカルチャーセンターで開催された広聴会の模様



しらすわグリーンパーク野球場の愛称を 「楽天イーグルスグリーンパーク本宮」と命名



10月19日にしらすわグリーンパーク野球場で球場の愛称となる「楽天イーグルスグリーンパーク本宮」の命名式と看板の披露が行われました。これは本宮市と(株)楽天球団が野球を中心とした地域スポーツの活性化と青少年の健全な育成を目的として、愛称の命名契約を締結したことによるものです。

今後、(株)楽天球団は年1回以上野球教室(野球塾)を開催することになり、子どもたちの野球に対する関心を高めることが期待されます。



▲サインボール交換する佐藤市長と池田球団副社長

命名式は、関係者が見守る中、佐藤市長と池田敦司球団副社長がサインボールを交換。佐藤市長が「県内で初めて楽天の名がついた球場。技術の向上と子どもたちの交流の場として期待する」とあいさつ。池田球団副社長も「将来のイーグルスを強くするため、若い力を育てたい」とあいさつを述べました。つづいて愛称看板が披露され、球場入口に飾られることになりました。



▲プロのコーチ陣に野球を教わる子どもたち



▲愛称看板の除幕

行政改革推進の 答申がなされました

9月1日に本宮市役所において、本宮市行政改革推進委員会の伊豆伸一副会長より、「本宮市行政経営戦略プラン取組み状況に関する答申書」が市長に手渡されました。

答申の内容は、「本宮市行政経営戦略プラン」の実施計画の進行について今後とも着実な実施を強く求めるものとなっております。

また、加えて人材育成、人的教育にかかる部分については、より効果的な仕組みを作ることで、民間団体との交換研修制度を検討する意見が挙げられました。市では、この答申に基づき今後の本宮市行政経営戦略プランの進行管理を行ってまいります。



▲市長に答申書を手渡す伊豆副会長(右)

シリーズ

「未来に輝くまちづくり」(4)

本宮市長 佐藤嘉重

お掛けいたしました。どうぞご安心ください。

本宮市が誕生して2年が経過いたしますが、財政問題に道筋がつき、いよいよ本格的なまちづくりのスタートラインに立ったような気分です。本市の魅力と地域資源を十分に活用し、市内全域の均衡ある発展をめざすとともに、高速交通網の要衝という本市の優位性を生かして企業誘致を積極的に進め、地域経済の活性化と雇用機会の拡大、自主財源の確保等に努めてまいります。

また、本市の重要課題となっておりました工業等団地造成に係る借入金約113億円につきましては、福島県からの支援(30億円の融資)や金融機関との話し合いにより、平成32年度までの13年間で償還する計画となりました。

さらに、国が示した財政健全化の目安となる4指標(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)も、すべての基準をクリアしており、今後も改善されていきます。市民の皆さまにはご心配を

行政運営におきましては、平成30年度を目標年度とする「本宮市第一次総合計画」が間もなく完成いたしますので、健全財政を基本に行政サービスの維持拡大を図りながら、行政改革をさらにパワーアップさせ、安定した自治体経営を確立していきたいと考えております。